

特別企画：「食品主要 195 社」価格改定動向調査 — 傾向データ分析編

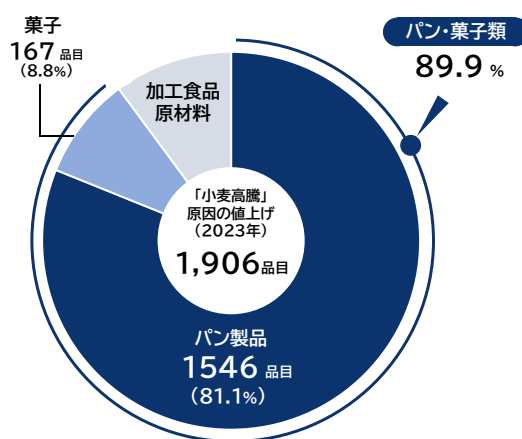
「輸入小麦」価格引き下げ パン・菓子 1900 品目で値下げ可能性

小麦価格下落の値下げ 実現は早くとも 24 年以降になると予想

政府による輸入小麦の売り渡し価格が 10 月以降、3 年ぶりに引き下げられることが決定し、記録的な値上げラッシュから一転、食品「値下げ」への期待感が高まりつつある。2023 年に値上げが実施された、あるいは今後予定がある 3 万 1036 品目のうち、小麦粉の価格高騰が直接的に起因した値上げ品目数は少なくとも 1906 品目に上った。このうち、約 8 割にあたる 1546 品目がパン製品で占められたほか、クッキーやケーキ類の菓子製品（167 品目）を合わせ、全体の 9 割がパン・菓子だった。加工食品でも、即席めん製品などで小麦価格の高騰による値上げが目立った。

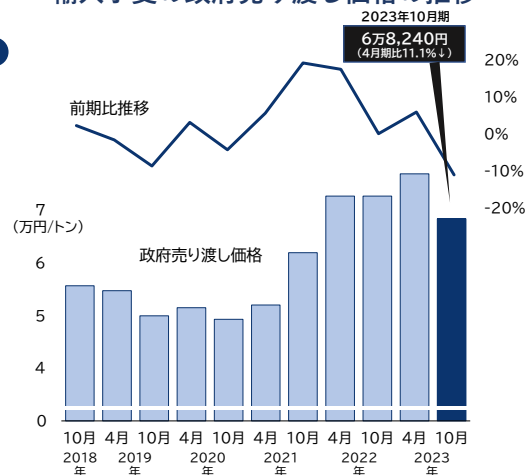
一部の食品では、既に小麦価格の下落で値下げが実施されたケースもあり、「値下げ」の動きが今後広がる可能性もある。ただ、足元では物流費やプラ製包装資材などでコスト増が続いているほか、パンや菓子製品では砂糖など副材料の高騰が続いている。また、高止まりしている電気・ガス代の動向、1 ドル=140 円台で推移する円安水準の長期化も加わり、原材料価格の下落を理由とした値下げは僅かにとどまっている。食品メーカー各社では小麦価格下落による製品価格への反映について順次検討するとみられるものの、値下げの実現は早くとも 24 年以降になるとみられる。

「小麦価格高騰」による値上げ



【注】 2023年に値上げが実施・予定される3万1036品目が対象（8月31日時点）

輸入小麦の政府売り渡し価格の推移



【出典】 農林水産省、5銘柄加重平均

【注】 品目数および値上げは、各社発表に基づく。また、年内に複数回値上げを行った品目は、それぞれ別品目としてカウントした値上げ率は発表時点における最大値を採用した。なお、価格据え置き・内容量減による「実質値上げ」も対象に含む

株式会社帝国データバンク 情報統括部長 藤井 俊

【問い合わせ先】 飯島 大介 03-5919-9343 (直通) daisuke.iijima@mail.tdb.co.jp

情報統括部：tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。